

同友しずおか 2020 12

VOL.505

私の逸品

SEISEN合同会社

中国の伝統楽器を
日本に広めたい！
「二胡」



静岡県中小企業家同友会



中国の伝統楽器を 日本に広めたい！ 「二胡」

SEISEN合同会社 (榛南支部)
代表 内藤 ゆみ子氏



二胡



今月の「私の逸品」は、SEISEN合同会社 代表の内藤ゆみ子氏が輸入販売している中国伝統民族楽器の二胡です。もともと二胡の奏者であった内藤氏。自身の先生より輸入窓口を引き継いだことをきっかけに合同会社を設立します。設立した西泉中国楽器販売合同会社では業界最大手の中国国営楽器メー



牧之原市での演奏会の様子

カー日本唯一の正規代理店として、二胡を始めとする中国伝統民族楽器を日本に広めてきました。2020年に社名を現在の「SEISEN合同会社」に変更しました。

ニッチなジャンルでも熱は止まらない

中国伝統民族楽器の歴史は長く、どこかで聴いたことのある音色だとは思っても、日本ではあまり馴染みの無い楽器です。その為、既存のユーザーに需要はあっても絶対数が少ないのが現状。内藤氏は新しいユーザーを増やすために、中国よりプロの演奏家集団を招待して大きく

演奏会を開いたり、演奏家と小中学校との交流会を開催したりと、本気で中国の音楽や歴史を広める活動をしています。本場に中国の音楽や歴史が好きなのだと言いつくほど、内藤氏が語り出すと止まらなくなります。その為なのか、思ったことは行動に移すのも早く、周りが圧倒される勢いがあります。

コロナ禍で事業拡大

日本全体が自粛ムードになった今年の春、特に中国製品を扱っている内藤氏は楽器の流通を自粛するなど大きなダメージを受けました。しかし、中国との独自ルートを確立している内藤氏は、以前から日本の企業や行政と中国とのマッチングの窓口を行うなど、多岐にわたる活動の中で、楽器に限らず様々な情報や商品を見つけることができてきました。その実績があったおかげで、周りからの要望に応え、正規ルートで安全・安心な不織布マスクをはじめとした様々な医療用品や衛生用品を手配することができ、事業拡大することができたそうです。

同友会への入会に希望の光を

世界が今までに経験したこと

のないような生活環境・経済環境になった今、一経営者として本場に必要なのは生きた情報だと内藤氏は語ります。「過去の確立されたノウハウも重要だが、今の社会で生きて行く為の生きた情報を同友会ならば共有し合えると思いい入会を決めた」と内藤氏。「まだ同友会に入会して間もないが、これからさらに学びを深めていきたい」と同友会への期待と意気込みを話してくれました。

取材・記事：河内崇文氏

(株)スマートブレイン・榛南支部

取材：中野博美氏

(株)ナック・榛南支部

SEISEN合同会社

〒421-0422 牧之原市静波411-7

TEL：0548-28-6866

URL：http://seisen-jp.com/

設立 2016年

入会年月 2020年11月

事業内容 楽器等販売卸、医療衛生用品販売卸、輸入雑貨販売卸(中国を中心にアジア全域から輸入・輸出、交流事業、マッチングなどの斡旋、楽器・医療用品・衛生用品・一般雑貨等、受注を踏まえ全て取り扱う)

ゴミ回収から社会環境クリーンアップ事業へ

(有)若松商事

代表取締役 尾友 秀人氏 (三島支部)



山下 直毅氏 尾友 秀人氏 増田 隼人氏

三島市で事業系一般廃棄物の収集運搬などを行う、(有)若松商事を取材しました。

夜学での社会体験が自身にとつてのターニングポイントに

尾友氏は学生当時、家計が大変で親から「定時制高校に通い、日中は働いてほしい」という話を受け、三島北高校の夜学に進学しました。日中は市内の和菓子屋や喫茶店などで働き、夜は定時制高校で勉学に励む生活が始まりました。夜学での社会体験が自身にとつてのターニングポイントになったと尾友氏は語ります。定時制高校に通う人たちは年齢も職業も多種多様で、20代の人もいれば、40代で通う人もいます。休み時間や授業終わりにみんなで話していると、様々なことを知る機会になったそうです。仕事に対しての姿勢や考え方も、社会で生き抜く術もみんな違っていて、それらをオープンに教えてくれる。これが創業のきっかけに大きく影響を与えました。

経験も人脈もゼロからのスタート

尾友氏は、市役所職員の父親に一般廃棄物処理の許可が取れるようになることを教えもらい、許可申請をすることを決意しました。当時18歳、未成年で法人でもなかったため申請は大変でしたが、夜学での社会体験も手伝って許可

を取得することができたそうです。いよいよ独立、古紙回収業者として事業活動を始めるわけですが、信用も人脈もなく営業しても断られる日々。夜は飲食店やクラブのボーイとして働き、どうにか生計を立てる生活が4年位続きました。

それから6年経ち、軌道に乗りはじめたタイミングで兄と一緒に仕事をしようになったそうです。飲食店から出るゴミの回収や、保育園、幼稚園などのゴミ回収も手掛けているとのことでした。

ゴミ回収から社会環境ビジネスとして

現在、県東部の一般廃棄物収集運搬の事業者で「エコニックス協同組合」を組織し、行政と連携して一般家庭から出る粗大ゴミの回収事業にも取り組んでいます。無許可で粗大ゴミ回収を行う業者が多く、不法投棄につながる現状を改善するための組織で、行政と協同組合が連携して粗大ゴミ

取材者メモ

(有)若松商事の事業は、ゴミ回収というワードに留まらず、社会環境そのものを快適にしたい思いが溢れていました。エコニックス協同組合の他、バイオマス事業も構想しており、今後の展開に胸膨らませるお話を聞かせていただきました。

取材・記事：増田 隼人氏

(株)集客デザイン研究所・三島支部

取材：山下 直毅氏

(株)サンアイ電工・三島支部



(有)若松商事

〒411-0024 三島市若松町4667-35
TEL：055-986-7528
URL：https://wakamatsushoji.hp.gogo.jp/

創業 1984年
社員数 5名
入会年月 2020年4月
事業内容 事業系一般廃棄物の収集運搬、
家庭ごみ、粗大ごみの収集運搬業務

初のオンライン開催

第34回全県経営フォーラムで2025年ビジョン案を発表

ウィズコロナ、アフターコロナに躍進する 企業と同友会のあり方を深めあう

- ・当日ご来席いただいたご来賓の皆様
杉山 俊博様 静岡県経済産業部商工業局長
白瀧 智彦様 財務省東海財務局静岡財務事務所長
石井 潔様 静岡大学学長
山本 義彦様 静岡大学名誉教授/静岡同友会 顧問
- ・当日ご参加いただいた行政・関係機関の皆様
(団体名のみ紹介)
厚生労働省静岡労働局
静岡県経済産業部
沼津信用金庫
三島信用金庫
富士宮信用金庫
静清信用金庫
島田掛川信用金庫

11月10日(火) コロナ禍でも学びを止めない思いのもと第34回全県経営フォーラムを初のオンラインで開催、会内外より160名が参加しました。今年度は理事会と2025年ビジョンプロジェクトが協同し設置しました本フォーラムでは「2025年ビジョン(第一次案)」を発表し、それらのビジョンをもとに3つの分科会で学びを深めました。

△全体会・基調講演▽
全体会では、まず青山達弘実行委員長、井上齊代表理事より挨拶。その後、ご臨席いただいた3名のご来賓よりご祝辞を賜りました。基調講演は、吉田敬一氏(駒澤大学名誉教授・中同協企業環境研究センター顧問)に「コロナ禍を切り抜け、コロナ後を切り拓く企業と同友会」をテーマにご講演いただきました。いま求められている持続可能な企業づくり・地域づくりの基本は「Think Globally, Act Locally(地球規模で考え、足元から行動せよ)」と話す同氏。経済循環には「ロー

カル循環」、「ナショナル循環」、「グローバル循環」の3つの分類があると言います。人口減少が進む現代社会においてはグローバル化・生産性を追求するのではなく、ヨーロッパのように成熟型産業を展開し、ローカル循環を極める持続可能な地域・社会づくりにシフトしていく必要があると話しました。そして中小企業の存在意義は自社固有の技術を先鋭化し、地域のニーズに応える「幸せづくり」にこそあるのではないかと語る同氏。コロナ禍にあっても同友会で学び、「自社にとってよい会社・よい経営者・よい経営環境とは何か？」を明確にし「何を変え、何を変えないべきか。先見性をもって決断すること」で危機を乗り越えられる企業になつてほしい」と語りました。

続いて、箕成頼副代表理事より、2025年ビジョン第一次案が発表されました。



基調講演の様子

【2025年ビジョン (第一次案)】

企業づくり：

私たちは、関わる全ての人々が『成長』と『幸せ』を実感できる企業をつくります。

地域づくり：

私たちは環境変化に適応する盤石な地域社会の実現に向けて共に学び合い、語り合い、行動し、中小企業にゆきない信頼が寄せられる地域をつくります

～大切な社員を守り企業を守りそして成長させていくことが地域づくりの第一歩～

同友会づくり：

企業と地域を守る経営者の矜持と努力を結集し、学び・気づき・ワクワク溢れる活動を通して県下1500名会員を実現しよう

～入ってよかった、続けてよかった、おかげで企業も地域もよくなった!～

コロナ禍でも未来を見据え、全県規模で学びあうフォーラムとなりました。分科会については次ページでご紹介しています。また、記念講演・分科会の様子は静岡同友会YouTubeチャンネルにて会員限定で公開中！リンクはedonju掲示板よりご覧ください。

第1分科会

企業づくり

報告者：松葉秀介氏（松葉倉庫株）
座長：増田崇氏（有リアス）



2020年で創業50周年を迎えた松葉倉庫。代表取締役社長の松葉秀介氏は同社の2代目になります。会社の歴史や社会情勢の変化、自身の学びそれぞれの関係性を一枚で振り返ることができる不離一体シートを活用し、大きな変化に企業がどのように対応するか、また企業の目指すべき姿は何かを常に考えているとのことでした。具体的には、変えなかったものは「社風」や「誠実・堅実・挑戦・協調」のキーワード、変えたものは「考えていることや目指していることの見えやすさ」と言います。創業以来の普遍的な想いや経営者の想い、会社の方向性をどのように社員に伝えるかを模索し、変化させてきたそうです。今回の報告のテーマである「変えなかったもの、変えるもの」について、松葉氏は「変えてはいけないものを明確にすることで、変えていくべきものが見えてくる」とまとめました。

松葉氏の報告と企業づくりビジョン案を踏まえ、企業の存続・発展に向けて共に目指す姿を共有した分科会となりました。

第2分科会

地域づくり

報告者：桑崎雅人氏（有島村歯車製作所）
今野英明氏（光誠工業株）
穂坂勝彦氏（富士宮清掃有）
吉田和弘氏（吉田道明税理士事務所）



2020年ビジョンの到達点の確認と地域づくりに関する事例を4名から報告しました。冒頭、吉田氏よりビジョン案を発表。その後桑崎氏より、2020年11月現在の中小企業振興基本条例（以下振興条例）の制定状況（静岡県と19市1町で制定）、4信用金庫との包括連携協定締結（以下協定）など、地域との関係構築の到達点を伝えました。事例報告では、穂坂氏より富士宮市の振興条例制定後の動きを説明。中小企業が抱える経営課題を施策に反映できることから会員が振興会議に参加する重要性を伝えました。今野氏からは、信用金庫との連携、牧之原市で実施されたジョブシェアリング事業、20年間続く同友会景況調査の意義を報告。

地域づくりは時間がかかるからこその今この時から未来を見据えることの重要性が共有されました。

第3分科会

同友会づくり

パネリスト：
宇佐美健介氏（有エージェンツうさみ）
渡邊且真氏（株協和）
松井杏美氏（県事務局員）
コーディネーター：
塚本和成氏（有塚本商店）



県青年部会長の塚本氏がコーディネーターとなり、パネルディスカッションを行いました。「増強」の意義、「事務局との関係、役割」を参加者と共に考え、2025年ビジョンを語りあいました。パネリストの宇佐美氏からは「富士宮支部長になった当初は増強をプレッシャーと感じていた。しかし、同友会の学びは人を変えてくれる。だからこそ自分も勧めようという考えに至った」と言います。県組織増強副委員長となった現在では「よい会社が増える」とその地域に住む社員や家族も幸せになる。会員増強は私たちにできる最大の地域貢献と考えている」と熱く話してくれました。最後にコーディネーターの塚本氏は「同友会の学びを自分ごととして実践し、企業、地域、同友会の発展の中心となっていきたいと思います」とまとめました。県青年部副部会長の渡邊氏は後継者として同友会で学び、切磋琢磨できる仲間との出会いや自身の目指すべき経営者の姿を話しました。

11月イントロセミナー

後継者として同友会で学んだ「会社を継ぐ覚悟」を報告



11月27日（金）にイントロセミナーが開催され、同友会事務局より6名、ZOOMより7名が参加しました。公共事業の土木施工・管理業を営む望月淳平氏（株望月土木・静岡支部）より、同友会で自身が変わったきっかけを報告。

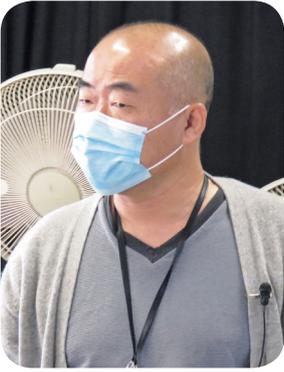
建設業を営む父の姿を見てきた望月氏は建設業界へ就職し、その後父が体調を崩したことで会社を継ぐことを決意します。入社当初は「もつと会社を良くしたい」と意気込むも、仕事に追われ将来のことを考える時間もなくなり不安が募る日々。そんな中2015年に同友会に入会、経営指針を創る会に参加したことで会社を継ぐ覚悟と自社の存在意義を深められたと言います。最後に「コロナ禍の厳しい状況でいかに会社を守っていくか」という望月氏からの問題提起をもとにグループ討論を行いました。

12月は富士宮市の志ほ川パイパス店にてサテライト会場を設営予定です。ZOOM、会場ともにご参加をお待ちしています！

第5講 11月4日(水)

正しい人生や生き方なんてあるのか？

講師：伊藤 崇洋氏
(株)オフジイ・榛南支部



伊藤 崇洋氏

藤枝市でソフトウェア開発から運用サポート事業を行う(株)オフジイ。伊藤氏は大手企業に就職後、お客様の役に立つことにやりがいを感じ起業しました。ソフト開発に自社ならではの遊び心を入れることで同じ性能を持つソフトでも他社と差別化を図っています。県共同求人委員会で実施する高校生向けインターンシップ事業「YouTie」に触れながら、正しい生き方の答えは無いからこそ数多くある仕事から何を選ぶのか、そして自分にどんな会社が合っているかを考えることが重要と伝えました。そして一人ひとりが社会的役割を果たすためには、組織の中の「信用」「コミュニケーション」「チームワーク」が大切であり、「コミュニケーション」とは話すことだけではなく、人の話をよく聞く力も大切だと語りました。最後に「どの仕事でも重要となるのはヒューマンスキル。主体性を持って行動できるように自身を磨いてください」とメッセージを送りました。

第6講 11月11日(水)

目的とビジョンを明確にして未来を切り拓こう！

講師：久高 洋司氏
(株)高栄塗装・静岡支部



久高 洋司氏

塗装、防水、コンクリート建造物の補修を行う(株)高栄塗装の久高氏は、高卒で入社した企業から1年ほどで建設業に転職し、26歳で創業しました。当時は会社経営が分からず、現場仕事の忙しさに流されていたと振り返ります。しかし、職人から「経営者」になると同友会に入会し、経営指針書を作成すると、自社の理念やビジョン、戦略が見えるようになり社員と目指す方向を共有できるようになりました。理念経営を実践してきた久高氏は「同じ夢を描ける人を採用し、共に成長でき、社員が一生を託せる会社になりたい」と語ります。また、学生に「将来のやりたい姿を考え、それを実現するために時間を大切に使うほしい」と話します。「人生は一度きり、毎日が本番でリハーサルはない。人生の目的のために目標を設定し、計画を立てて実行してください」とメッセージを送りました。

第7講 11月18日(水)

健康と建築

住まいづくりの責任

講師：朝日 康典氏
(株)朝日鉄建・富士宮支部



朝日 康典氏

富士宮市で建築設計を行う(株)朝日鉄建修行を経て家業に入った朝日氏は営業を行わない父の経営スタイルに不安を感じます。自身が代表に代わり、同友会に入会。今の会社が「会社の体をなしていない」ことに気づき、まず理念の作成と労働環境整備に取り組みました。お客様から様々な依頼を受ける中で、断熱材が全く機能していない家などさまざまな建築が存在する住宅業界の現状に「お客様のために快適な住まいづくりがしたい」と思いが明確になりました。そこで試行錯誤しながら夏涼しく冬暖かい、自然素材で耐震や防蟻を実現した自社ブランドを展開。理念に沿った「健康で快適に暮らせる家づくり」に専念することでお客様に満足して頂き、「健康」というキーワードで問い合わせが来るようになったとのこと。今後の展望として「時代のスピード感に対応した事業展開を行い、さらに地域になくてはならない会社を目指していく」と語りました。

第8講 11月25日(水)

中小・小規模企業の役割

地域経済の担い手として

講師：遠藤 正人氏
(株)富士トレーディング・富士支部



遠藤 正人氏

富士市で企業間連携のサポートや産学連携コーディネート、新商品の開発などを行う(株)富士トレーディング。遠藤氏は学生時代や県内大手企業のサラリーマン時代の経験から、企業同士の連携でより良い商品が生まれ、新たな価値の創造に繋がるのではと考え、同社を創業。「コラボレーションを生み出すコーディネーター」として、多くの新商品開発に携わってきました。また、「自社の繁栄は地域の繁栄と不離一体」と捉え、地域とも積極的に関わっています。特に2007年に県内で初めて制定された「富士市中小企業及び小規模企業振興基本条例」が2018年に改正された際には、より地域の中小企業経営者の実態に即した条例となるよう働きかけました。最後に学生に向けて「計画通りの人生を歩める人はごく一部。やらずに後悔するよりやってみて後悔の方がよい。迷ったら大胆な方へ」と自身の経験に基づいたメッセージを送りました。

障がい者雇用の第一歩は知り合い、学び合うことから

学校とのオンライン会社紹介&交流会を開催

11月20日(金)、県障がい者問題委員

会はZOOMで障がい者の実習受け入れ促進にむけた会社紹介&交流会を開催。会員と県内特別支援学校の進路担当、行政、マスコミ合わせて26名が参加しました。コロナ禍で障がい者の雇用情勢が低迷している中、委員会では「まず障がい者実習の受け入れ企業を増やしたい」と考え本行事を企画しました。会員経営者と特別支援学校の先生がつながり、障がい者実習について学びあう交流会となりました。当日は、まず特別支援学校の進路担当の先生より障がい者実習の目的やスケジュール、知的障がい者の特徴・向いている仕事などについて説明がありました。続いて会社紹介コーナーでは障がい者実習の受け入れに興味がある会員経営者8名が、自社事業や障がい者にお願したい仕事内容について写真や動画を使いながら説明。その後の交流タイムでは率直な意見が交わされ、会員の疑問や不安点に先生が答えたり、実際に雇用している会員企業の話を知りたりしながら、障がい者実習への理解を深めました。

参加者感想

まず知りたい、という思いから参加し、自分の中にいかに思い込みがあったのかを感じました。もちろん、会社に受け入れ・教育の体制がなければ障がい者実習受け入れや、その先の本人も周りも幸せに働く会社づくりは為せないと感じます。一方で、それは我々が「健常者」と呼んでいる周囲の人の付き合いや自分自身にも同じ事が当てはまります。相手の得意分野を知り、個性を知る。その上で多様性を生かし、単純作業一つ取ってもお金がもらえるレベルにまで昇華していく。これらは我々が普段、人や事業と向き合うときに意識すること何ら変わらないことではないか。グループ討論で投げかけられたその問いから、良い環境作りには障がいと健常の境はないと気付かされました。

渡邊且真氏(株)協和・静岡支部



「コロナ禍における事業継続について経営者の責任とは？」

県例会企画委員会グループ長研修

藤枝市文化センター&ZOOM

11月18日(水) 県例会企画委員会は、藤枝市文化センターとZOOMにて、今年度2回目となるグループ長研修を開催しました。当日はオブザーバー1名の参加もあり会場13名、ZOOM9名の計22名が参加しました。宮田博文例会企画委員長(有)ミヤタ印刷・静岡支部)が、学びの多い例会にするために重要となるグループ長の役割について説明し、村松繁氏(アイマーク株)・志太支部)が「コロナ禍における事業継続について経営者の責任とは？」をテーマに自社経営の実践を報告。その後グループ長を変えて「コロナ禍で自社が受けた影響」、「コロナ禍での自社の役割」、「経営者の責任」の3つのテーマでバズセッションを行いました。参加者からは「村松氏の本気の経営実践をバズセッションを通して深めあえた」「本研修で学んだことを支部例会の中でも活かしていきたい」という感想が聞かれました。



村松 繁氏

「ホームページの活用で集客UPにつなげよう！」

県広報情報化委員会 オープンニ勉強会 ZOOM 11月26日(木)

県広報情報化委員会の主催でオープンニ勉強会がZOOMにて開催され、23名が参加しました。会員企業のITツール活用や広報活動を推進すべく企画された勉強会の第1回目は、ホームページの集客アップをテーマに、HP制作やDX(オンライン化)支援を行う長岡善章氏(株)アーティスティック・沼津支部)に報告いただきました。「人口減少が進む社会において、人がやる仕事とIT化する仕事を分けていくことが大切になる」と長岡氏。ホームページの集客を増やし、営業ツールとして活用していくためにはSNSやグループマイビジネス、リスティング広告などを併用することが効果的であると話し、無料のサービスをいくつか紹介しました。その後のグループ討論では自社でのIT化の取り組みについて話し合い「せっかく作ったホームページに人が呼べるような仕組みづくりを進めたい」などの意見が多く交わされました。



長岡 善章氏

12月・1月 2021年

DOYU CALENDAR

12月16日(水)～2021年1月15日(金)

12月 16日(水)	県共育委員会 (19:00 ZOOM) 沼津例会 (19:00 ZOOM)	24日(木)	県障がい者問題委員会 (18:00 ZOOM)
17日(木)	中遠例会 (19:00 ZOOM) 浜松例会 (19:00 緑の谷のごちそうテラスCocochi) 富士例会 (19:00 ロゼシアター&ZOOM)	25日(金)	会員経営者が語る「イントロセミナー～同友会と私～」(同友会事務局&ZOOM) (19:00 同友会事務局&ZOOM&志ほ川バイパス店)
22日(火)	県例会企画委員会 (18:00 ZOOM)	1月 8日(金)	富士宮例会 (19:00 志ほ川バイパス店)
23日(水)	県理事会 (15:00 ZOOM&同友会事務局)	13日(水)	正副代表理事会 (15:00 ZOOM&同友会事務局) 御殿場例会 (19:00 エピスクエア&ZOOM)
		15日(金)	女性経営者交流会 (18:30 同友会事務局&ZOOM)



《 あなたのスケジュールノートに必要事項をご記入ください 》

新会員のご紹介 (敬称略) 会員数 1062名

氏名	社名・事業	所属支部	紹介者
さいとう 齋藤 ゆたか 豊	プルデンシャル生命保険(株) 保険業(生命保険業)	御殿場	元東京同友会
せりざわ 芹澤 まこと 真	芹澤開発(株) 不動産業(不動産売買仲介、リフォーム)	御殿場	内海 典丈
すぎやま 杉山 たかゆき 貴之	(株)SUGIWA 建築塗装業(総合リフォーム)	静岡	岩崎 和之
やまだ 山田 ながひと 長仁	山田保険企画 保険業(保険代理店)	静岡	岩崎 和之
こはやし 小林 かつし 克志	(株)風 コンサルティング業など(経営相談、社員研修、セミナー、カウンセリング、コーチング、システム開発、ECサイト運営)	志太	元北海道同友会 /HPより
まつした 松下 きみこ 公子	松下不動産 不動産賃貸、農業	浜松	江間 省豪

※新会員の写真はe.doyu「ユーザ名簿」に掲載します。e.doyuからのご確認をお願い致します。

「あい、語り、共に生きる。～中小企業家としての誇りを胸に～」

第23回女性経営者全国交流会 from 新潟

11月16日(月)

「あい、語り、共に生きる。～中小企業家としての誇りを胸に～」をテーマに第23回女性経営者全国交流会 from 新潟がオンラインで開催され、全国47同友会から707名が集いました。5つの分科会に分かれて学びあい、続く記念講演では、新潟県佐渡島で老舗酒蔵を営む尾畑酒造(株)専務取締役(五代目蔵元)尾畑留美子氏より「私たちの存在意義～佐渡が酒を醸し、酒が佐渡を語る～」をテーマに講演がありました。当日の内容については「中小企業家しんぶん」1月15日号に掲載されますのでそちらをご覧ください。

<記念講演を聞いての感想>

尾畑氏の講演を聞き、私もそうでしたが、親の跡を継ぐということの難しさを本当に実感しました。尾畑氏も希望と自信を胸に実家に戻り、何でも心折れていく中、うまくいかないことを環境や人のせいにしてしまいがちながら「それは違う。自分を変えよう」と考え方を変えた瞬間から周りが変わっていった話を聞き、本当に大切なことだと感じました。それからの海外展開や学校蔵プロジェクトなど様々な挑戦、賞の受賞など素晴らしいお話でした。

北條 由美子氏 (㈱伊東住設・県女性経営者交流会会長)

来年の女性経営者全国交流会は愛知にて開催予定です。ぜひご参加ください!